

コロナ第3波 検査・医療体制強化 を求めました 県に緊急要望



右から：みわ由美県議、加藤英雄県議

新型コロナウイルスの「第3波」で千葉県でも新規感染者が急増しています。日本共産党千葉県議団は17日、森田健作知事あてに検査・医療体制の強化を求める緊急要望を行いました。

11月14日の県内新規感染者は88人（19日は106人）、15日現在の直近7日間の平均感染者数も61.0人で、いずれも県内最多となっています。検査の一日最大検体採取能力は約2万4千件ですが、実際の採取（検査）最大数は1万強。持てる能力の半分にも達していません。

県担当者は「国の通知もあり、高齢者施設は濃厚接触者（の検査）とは別に扱いたい」「病床確保は全県の医療提供体制をフェーズ3（4段階の上から2番目）に引き上げる」「確保していたホテルを再開する」などと述べました。

加藤英雄、みわ由美両県議は「県として急拡大の原因を分析し、無症状の感染者を把握・保護する検査への方針転換が必要」「医療機関の疲弊も深刻。遅れている病床確保の補助金の早期支給を」と強調しました。

要望した内容

1. 感染者や濃厚接触者を中心とした検査から大規模で集中的な検査への方針転換。

- ① クラスター対策にとどまらず、感染急増地（ホットスポット）のリスクがあるところに対する「面の検査」を実施すること。
- ② 医療機関、介護・福祉施設、保育園・幼稚園、学校、学童保育（クラブ）などの施設等に定期的な「社会的検査」を行い、感染拡大を事前に防ぐこと。
- ③ 感染者が集中している地域では希望者に対して検査を行うこと。
- ④ 検査費用は全額国庫負担とするよう国に強く申し入れること。

2. 病床や宿泊療養施設の確実な確保と、医療機関への支援を強化すること。

- ① 今後の急拡大に備え、病床や宿泊療養施設の確保を進めること。臨時医療施設をいつでも開設できるよう準備を進めること。
- ② 各医療機関、宿泊療養施設、福祉施設等に対し、必要な感染防護具、医療資材が不足することがないよう、県の責任で確保し供給すること。
- ③ 新型コロナウイルス患者や発熱患者受け入れの有無にかかわらず、全ての医療機関への財政的補償を拡充し、「医療崩壊」を生じさせないこと。

3. 感染追跡を専門に行うトレーサーを確保すること。各健康福祉センター（保健所）、衛生研究所の人員増など、抜本的な体制強化をただちに図ること。

